

かさま 社協だより

No.15



編集・発行 2011.8.1

社会福祉法人笠間市社会福祉協議会広報委員会 笠間市美原3-2-11 TEL.0296-77-0730
E-mail info@kasama-syakyo.jp URL http://www.kasama-syakyo.jp/



6月4日 グリーンフェスタ（穴戸ヒルズにて）

も く じ

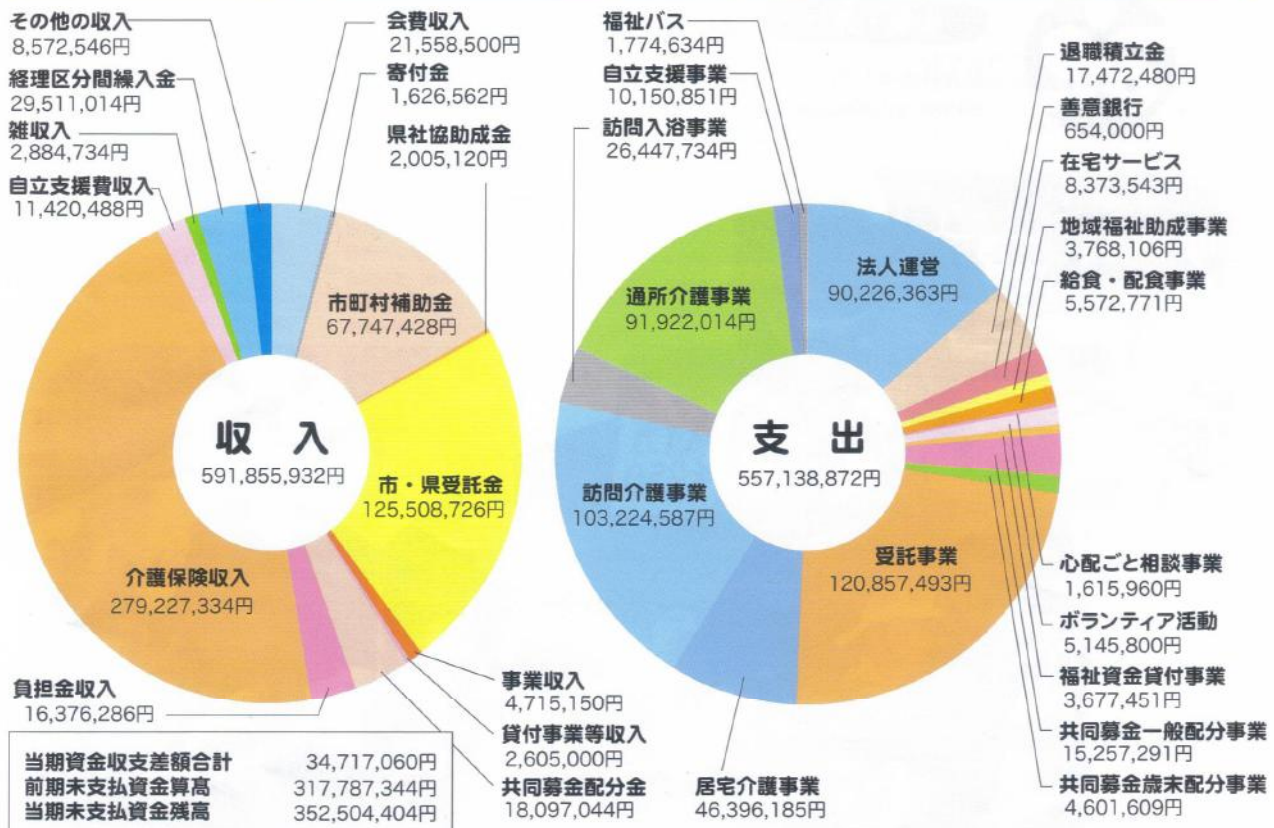
- ① 平成22年度事業報告・決算報告 2～3
- ② 「あの日を体験し私を感じたこと」 4～5
- ③ 支所だより 6～7
- ④ 在宅福祉サービス設立総会 8
- ⑤ 人事異動ほか 9
- ⑥ お知らせ 10



この広報誌は共同募金の配分金を受けています。

および決算報告

一般会計資金収支決算



いこいの家「はなさか」特別会計資金収支決算



平成22年度 社協事業報告

法人運営事業

- ・理事会、評議員会、監事会、正副会長会議の開催
- ・部会、委員会の開催
- ・支部・地区社協を理解するための学習会（笠間・岩間地区）
- ・会員会費、共同募金の募集
- ・かさま社協だよりの発行（12号・13号・14号）
- ・各種団体への事業助成
- ・低所得者福祉（小口貸付・生活福祉資金）
- ・心配ごと相談所の運営（相談件数229件）
- ・心配ごと相談所合同研修会
- ・法律相談所の運営（相談件数93件）
- ・第3回笠間市社会福祉大会

ボランティアセンター事業

- ・運営会議、代表者会議の開催
- ・ボランティアリーダー研修会の実施
- ・ボランティアセンターだよりの発行
- ・児童・生徒の福祉講座の開催
- ・高校生たちの福祉体験学習会
ワークキャンプ20人参加
- ・夏休みわくわく体験教室
小学生・保護者 延べ663人参加
- ・住民対象の福祉講座の開催
10講座、延べ666人参加
- ・ボランティアサークルの育成
81サークル 1,329人が活動
- ・福祉バス運営
利用団体 52団体 利用人数 2,127人

児童・生徒ボランティア活動普及事業の推進

- ・市教育委員会・家庭教育学級との連携
- ・先生方の福祉研修会の実施
- ・福祉事業協力校への事業助成
市内幼稚園、保育所、小・中・高校42か所
- ・学校依頼による福祉体験学習に指導・協力 9校
延べ1,029人参加 ボランティア協力143人

善意銀行運営

- ・預託金 1,626,562円 96件
- ・物品委託 193件
- ・福祉機器等の貸出しサービス
車いす、福祉車両、点字版、着ぐるみ、行事用テント、鉄板、大鍋、かき氷、輪投げ、グラウンドゴルフセット、ギャッジベッド、綿あめ機等

笠間市委託事業

- ・地域活動支援センター「ニコニコハウス」の運営
訓練日数：週5日 訓練生13人
訓練科目：生活・作業・行事訓練
- ・地域ケアシステム推進事業
在宅ケアシステム数（55チーム）
日常生活自立支援事業の推進（利用者 27人）
在宅介護者の会への支援
在宅介護者交流会、学習会の実施
- ・親子通園事業「つくしんぼ教室」「すずらん教室」「おひさま教室」
登録児数51人 開催回数245回
- ・家族介護教室 受講生14人
茨城県地域介護ヘルパー課程・救急救命等
- ・在宅福祉サービス
会員総会の開催・会員情報交換会
移送サービス運転者確認講習会
協力会員 187人 利用人数 延べ5,861人
- ・いきいき交流活動通所事業
利用延べ人数 9,598人 実施日数 635日
主なサービス（健康チェック、趣味活動、レクリエーション等）
- ・軽度生活援助事業
利用者延べ人数749人

笠間市指定管理業務

- ・地域福祉センター「友部社会福祉会館」の管理・運営
利用者 27,872人 利用団体 1,029団体
- ・いこいの家「はなさか」管理・運営
開館日数 284日 入館者数 63,489人
送迎バス利用者 5,771人
- ・福祉センター「いわま」管理・運営
一般開放日 46日（毎週木曜日）利用者315人
- ・福祉作業所「たけのこ」（友部）運営
訓練日数：週5日 訓練生19人
訓練科目：生活・作業・行事訓練
- ・福祉作業所「あおぞら」（岩間）運営
訓練日数：週5日 訓練生8人
訓練科目：生活・作業・行事訓練

介護保険事業

- ・訪問介護事業（笠間・友部・岩間）延べ34,081回
- ・訪問入浴事業（友部）利用者 延べ1,319人
- ・通所介護事業（笠間・友部）利用者 延べ10,164人
- ・居宅介護事業（笠間・友部・岩間）利用者 延べ4,316人
- ・自立支援居宅事業（笠間・友部・岩間）利用者 延べ417人

感じたこと

あの日（東日本大震災）
多くの人が自分の事はさておき、被災者のために何か出来ないだろうかという気持ちに駆られました。そしてそれぞれの立場から、活動した様子や感想などを寄せていただきました。



民生委員・
児童委員
稲田 寛

3月11日午後2時46分、巨大地震発生。笠間市震度6強、大きな被害をもたらした。

その日、笠間支所2階で会議中であつた。地震発生！天井落下。危険を感じやつのことので2階屋上に避難した。立つていられない程の強い揺れ。四方の山々からは白い（黄色い）煙が舞い上がっていた。恐怖で落ち着いた行動がとれなかった。

この体験から避難に当たっては、この程度なら大丈夫と想定

車いす生活者 加藤 泰廣

私は車椅子でひとりで生活しています。3月11日の地震ではこの世の終わりのかと思いました。電気と水の来ない地震当日の夜は、買い置きパンを食べ、早々に体中にカイロを5個貼り寝ました。次の日から3日間近所の方々から水やおにぎりを貰い過ぎました。

この様な非常時は特に、近所の手助けを有り難く思えます。感謝の気持ちです。

にとらわれないこと。率先避難者になることが大切だった。

民生委員として、余震が続いている中、地域のひとり暮らし高齢者、高齢者世帯を中心に安否訪問をした。その結果、災害が発生した時、自力で避難することが困難で、それぞれに応じた支援が必要な人がいる。こうした不安を抱えている人、孤立しがちな人をつかり把握し、地域（向三軒両隣）で助け合い、支え合う関係をつくっておくことが必要だと強く思った。

実際に災害が発生した時、民生委員の中心的役割を確認させられた震災であつた。

私の友人は（車椅子使用）家の中で、茶ダンスの食器や棚の上の物が落下し、屋根瓦が軒下に散乱し、家の中から脱出できず救急車を呼び救出されました。今回の様な大規模災害の弱者に対し、以前市では災害時の救出希望対象者を書面で受け付けましたが、そのリストを今回活用されなかったのが残念です。この地域が、大災害を現実的なこととして考え、早急に住民と自治体が一体となって対処方法を構築して頂きたい。



災害ボランティアによる瓦礫の撤去

有料老人ホーム
シルバークはこだ

施設職員

大地震の発生から数ヶ月経ち、当施設にも震災前の日常と変わらない光景が戻っています。

幸いにして、入居者様、職員へ震災による被害が及ぶようなことは全くなく、建物も大きな被害を受けずに済みました。震災発生後の数日間、停電、断水という現実がありました。内容は十分と言えないまでも一日三食の食事を提供できましたし、飲料水についても皆様のご協力により、その日、その日の消費分は確保することができました。また、当施設は自家発電

の設備を保有しており、夜間は発電機を作動させ、廊下や共有スペースの照明を確保できますので、入居者様には、明るい食堂で食事をし、過ごし慣れたご自分の居室で就寝していただくことができました。

前述のように、震災の影響による数日間の想定外の状況は、何とか乗り切ることができました。しかし、入居者様一人ひとりの生活を守っていくことこそ、私達に与えられている最も重要な責務でありますので、防災対策には、想定外があつてはならず、あらゆることを想定した対策を考えていかなければならないと強く感じています。



瓦の片付け

あの日を体験 私が

ボランティア友援の会

松居 孝

私は、地震発生時笠間市社協のボランティアセンターで仕事をしていました。

地震後、笠間市役所より友部中学校で避難者への炊き出しを行うとの連絡を受け、災害・救援ボランティア「友援の会」で支援することになりました。

しかし、会員への連絡網が寸断されており連絡がでず困りました。幸い近所の会員の協力も得られ、市職員と共に活動を始めましたが、水や資材不足で順調にはいきませんでした。

会では、災害時の炊き出し

社協・訪問介護員

松田 輝子

訪問先にて入浴介助をしていた最中に大地震が発生し、ラインが途絶え、事務所にも連絡がとれず不安になった。とにかく夜になると、動きがとれなくなるので安否確認に走る。一人暮らしの利用者を大家さんをお願いしたり、体育館に避難させる。社協にも避難者がくることになり、私は体育館に避難

を行いました。友部中学校他四ヶ所の避難所等災害本部と一二〇〇食以上作ることができました。翌朝も実施しましたが、その後の炊き出しは順調に行われましたので、私たちは社協内の災害ボランティアセンターでの活動に切り替えました。ここでは、社協を利用している方々の安否確認、給水・配食、後片付け等の支援活動の他、災害ボランティアセンター受付業務等支援活動と約1ヶ月間にわたる協力をしてまいりました。「備えあれば憂いなし」の言葉どおり今後も準備、訓練を会員と共に励み歩んでいきたいと思っています。

させた利用者のおむつ交換を引き受けた。それから土日関係なく交代で24時間数日間対応した。ヘルパー達は利用者宅へ訪問できるよう朝早くからガソリン確保の為並び、独居生活で調理をしなければならぬ家は、そのおかげで買物などもでき対応することができた。自分でも避難所で一夜明かしてみても、東北の人たちの大変さがよくわかり、皆で協力していかないと生活ができないことも身にしみた。



大学生
花山 泰裕

東日本を未曾有の地震が襲い、茨城県も深刻なダメージを受けました。私は震災から3日後、ボランティアを志願しました。作業内容は炊き出しの手伝い、崩れた瓦や石塀の片付け、ガラスや壊れた家具が散らばる部屋の掃除などでした。他者との出会い、考えを聴けることは、私にとってかけがえのない報酬で、同世代だけでなく社協のみなさんや支援をさせて頂いたご家庭の方々とお話をできた私は、お金では買うことのできない報酬をたくさん頂きました。

また、ボランティアを経て、地震の大きさを改めて認識し、人間の、そして自分自身の小ささを強く感じました。そんな私は「ありがとう」という言葉に、「ありがとうございました」と返答しました。なぜなら、ボランティアというものは、私にとって人助けではなく、人を助けさせて頂いているもので、私は偶然にその機会が巡ってきただけで、協力や助け合いの本質を感じた私にとっては、この機

会を与えて下さった方々に感謝したいと心から思ったのです。私だけの支援では、何もできずに終わっていたでしょう。しかし、私はひとりではありませんでした。参加したみなさんの力を借りて、私自身も助けてもらって初めて人の力になったのですから。

今、私は大学に進学し、子どもまつりという行事の実行委員として活動しています。来年は私が企画の中心として活動していくので、今回の経験から人間の小ささ、自らの存在意義、助け合い、協力をテーマに子どもたちに少しでも役立つ行事にしたいと思っています。

また今度、大地震があるかもしれないと思いますが、私はその時までには少しでも大きな人間となり、今回以上の支援ができる人間になりたいです。でも、私だけでは足りません。みなさんの助けが必要です。

最後に、この機会を与えて下さった社協の方や支援させて頂いたみなさまへ感謝の意を込めて言わせて下さい。
「ありがとうございました」

(皆塚・関・久保田)

だより

3支所の動きを、わかりやすくお伝えするコーナーです。友部支所は、30年の歴史の中で築いてきた活動の様子と、新しく食事作りのグループを立ち上げたお話を。笠間支所は震災の後の、デイサービス等の動きを。岩間支所では地区社協の誕生の事を紹介いたします。

友部支所

大原支部 地域交流大会

中村 晃

支部活動も30余年の歴史を重ねて来ました。

支部社協が設立した当時の社会環境と今の社会環境では大きく変化しております。支部活動も時代の流れと世代の交代により変化しています。

当支部において、高齢者の生きがい事業として、クロツケー大会、若者を対象に地域交流事業として、ソフトバレーボール大会等を開催して来ましたが、しかし、クロツケーは18回大会まで開催しましたが、クロツケー人口の減少により平成19年度からクロツケーの代りにグラウンドゴルフを取り入れました。その結果、大変な人気で、大会も30チーム余の参加があり盛会に開催されています。選手の皆さんは、日常的に練習に励み元気に楽しく仲間と汗を流し、健康



グラウンドゴルフを楽しむみなさん

の維持増進を図っております。ある地区では、神社境内を整備し、8ホールを完成毎日地域住民が大勢、楽しく汗を流しコミュニケーションを図っています。

また、ソフトバレーボール大会は、19年度でチームが出来なくなり、その代わりにゴルフ大会を20年度から取り入れました。ゴルフは、老若男女誰でも参加でき、17組63人が参加し盛会に開催されています。参加者の中で、最高齢者は86歳の方、夫婦の方や親子での参加など大変盛り上った大会になっております。

社協活動も内容を検証し、見直していく時期に来ているように思います。

おいしい食事を

心がけて

ボランティアサークル

お達者ランチ会

代表 小島 れい子

「以前のように、お昼には手づくりの食事が食べたい」

合併を機に昼食が購入したお弁当にかわってしまつた友部地区のいきいき通所事業『お達者クラブ』利用者からの要望でした。その要望がきっかけで、手づくりの食事を作つてあげたいというボランティア数人が集まり、どのように提供すればよいか、事務局を交えながら何度も話し合いを重ねました。

その結果、友部福祉会館調理室が空いている日を活用しボランティア数人でグループを組み、昼食用のお弁当を作ることに決めました。ボランティア確保のため民生委員の皆さんにもよびかけ、現在は総勢34人、そのうち半分が民生委員です。

利用者は毎日10人〜12人、友部地区内の高齢者が学区ごとに送迎車に乗つて集まってきます。週一回の利用なので、その一週間は同じメニューにして、ボランティア活動がしやすいようにしました。活動はひとり月二回と決め、調理室の空いている日に合わせ、ローテーションを作りました。



お達者ランチ会によるお弁当づくり

料理も覚えられ、ボランティアの仲間や利用者の高齢者とも親しくなれ、楽しく活動していますと仲間の声。利用者からは、おいしい手づくりのお弁当に感謝の声も。

平成23年5月からスタートした「お達者ランチ会」、さまざまな活動ですが、介護予防事業の一端を担えるよう皆さんと一緒に頑張っています。



支所

岩間支所

『泉A地区社協』
設立総会開催

運営委員長

中村彦藏

震災で

改めて知る

地域の輪

愛宕山のふもととの長寿地区6区(山根南・山根北・五霊・北根中・北根東・北根西)280世帯、824人による「泉A」地区社会福祉協議会が去る7月9日発足しました。震災直後の3月26日に第1回目の協議会を開催し、以後3回にわたり、区三役・公民館三役などを招集し、地区社協の在り方、活動方針を確認しました。福祉推進員の依頼、運営委員の選任、規約(案)の作成、事業計画など、前社協支所長の小池和夫氏との協議を重ねて、設立総会(代議員会)に至りました。その間、各区長等の要望や意見を十分尊重し、福祉推進員36人、運営委員15人の組織を構築しま

した。本地区は、歴史的にもつながりの深い地域で、愛宕神社や八坂神社の氏子、あるいは、龍泉院の檀徒と共通した地区として一体感があります。

また、震災による共助共援の体験もあと押しをし、地区社協設立の理解が深められたことも事実です。

設立総会は、来賓として、山口市長、梅崎社協会長、同小池次長、富施岩間支所長、岡野区長会長をお迎えし、議事については、ほぼ原案どおり承認されました。

本地区は、高齢化率35.7%、小学生20人余りと、まさに少子高齢地域です。三世交代流の事業を推進したいと考えています。議事終了後に、福祉学習会(東京都地区社協活動状況例のビデオ研修)を開催し、社協活動の理解を深めました。

今後、旧岩間の地区社協が次々に誕生することを期待しています。



笠間支所

大きな
災害を受けた
社協笠間支所

今回の東日本大震災により笠間支所も損壊しました。特にデイサービスの部屋は壁、蛍光灯、ベランダの屋根がともひどい状態です。地震発生時間が2時46分すぎとあってデイサービスの利用者の皆さんは全員ホールにいてレクリエーションの最中。利用者、職員誰も怪我がなく避難できほつとしています。

現在は、介護部門は友部保健センターで事務所を構えています。それ以外は市の笠間支所プレハブで業務を行っています。また、通所介護事業(デイサービス)は出来なくなり、数人の方には友部支所のデイサービスを利用していただいております。

利用者の方々には今後とも何かとご不便をおかけいたしますが、支所職員一同、与



えられた環境の下で精一杯頑張っていますので、よろしく願います。

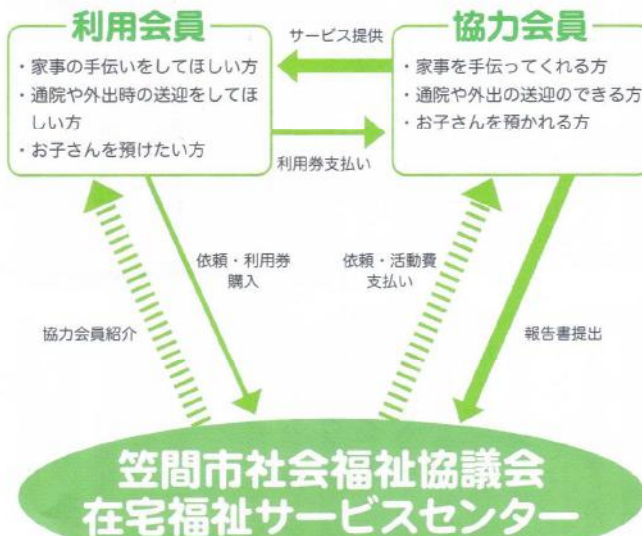
在宅福祉サービス 「ほっとパル・かさま」誕生 設立総会

去る6月18日、友部社会福祉会館において在宅福祉サービスの設立総会が開催されました。

当日は、協力会員・賛助会員、来賓者を合わせて約90人余りの出席をいただき「ほっとパル・かさま」の新たな旅立ちに向けて、心をひとつにし、「困った時はお互いさま」の精神のもと歩み始めました。

(関)

在宅福祉サービスのしくみ



TEL 0296-78-3939

三地域が一つになって

会員部会委員長
千代 京

3市町が合併して5年が過ぎましたが、それぞれの地域では在宅福祉サービスの活動は行われておりました。今後は、笠間市社会福祉協議会のもと三地域が一つになって、更に充実したサービスが展開できるようにと、検討を重ね6月18日友部社会福祉会館にて、在宅福祉サービス設立総会発足の運びとなりました。今後の活動におきましても

それぞれの地域には異なりもあろうかと思われませんが、永年培った「困った時はお互いさま」の在宅福祉基本理念のもと「お互いに助け合い、支え合いの精神で」地域に根ざした活動が進められることを願っております。今後とも協力会員・賛助会員皆様方のご支援ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

参加者の声

笠間地区

活発な総会でした。会の名前決めて多くの意見が飛びかい各々の熱い思いが伝わりました。お互い様の心で助け合いをしていこうとこんなにも大勢の人が登録しているとは地域の力を実感できた総会でした。

(M)

岩間地区

今回の在宅福祉サービス設立総会において多数の参加をいただき、3地区が一本化され大きな絆で結ばれての新たなスタートが切れました。在宅で私たちの支援を待つ方々のために、より良い活動に努めていきたいと思えます。

(Y)



心をひとつに設立総会

友部地区

この度、「ほっとパル・かさま」が産声をあげました。笠間市内3地区が心をこめて育てていかなければと思います。助け合う心、支え合う力は温かくも強い絆となって発展していくものと信じます。

そして一人ひとりがスキルアップに心がけ、利用会員の皆様や多くの市内の方々に笠間に「ほっとパル・かさま」があつて本当によかったと思つていただける存在を目指して進んで参りましょう。

(I)

賛助会員

「困った時はお互いさま」の精神で、在宅福祉サービス事業が新たにスタートした。さて、私は今、自分に何ができるかを問いかけてみた。ほんの気持ちを寄付し、共に学び合いながら、少しでも地域社会の役に立てたらいいかなと思う。

(T)

賛助会員募集

在宅福祉活動の基本理念に賛同して一口一、〇〇〇円よりご協力をお願いしております。

人事異動

新所属・職名	氏名	旧所属
次長兼友部支所長	小池 和夫	岩間支所 支所長
岩間支所 支所長	富施 信行	友部支所 グループ長
主幹	米川 初美	笠間支所 主幹
友部支所 主幹	片岡 光子	岩間支所 主幹
笠間支所 主事	山田由美子	友部支所 主事

新規採用

所属・職名	氏名	備考
友部支所介護支援専門員	藤田 佳美	
友部支所 主事	生駒 大輔	
岩間支所介護支援専門員	小林 紀子	
ボランティア総括推進員	小菅 栄子	嘱託(非)
自立支援専門員	小滝 徳治	嘱託(非)
生活福祉資金相談員	菅谷 光男	嘱託(非)

新支部役員が決まりました。

支部	役職	氏名	支部	役職	氏名
穴戸	支部長 副支部長	幾浦 忠男 倉持 征敏 宇津 功 出地 八重子	大旭	支部長 副支部長	小倉 秀男 園部 昭徳 菅原 毅 平倉 ヒサ
東	支部長 副支部長	松田 良一 北崎 百彦 内桶 正夫 橋本 由合子	北川根	支部長 副支部長	皆塚 和昭 菅谷 亨 滝嶋 伸 斉藤 ふみ子
中央	支部長 副支部長	大塚 松寿子 長谷川 悦子 鈴木 征夫 佐藤 治	大原	支部長 副支部長	櫻井 政夫 小幡 昌文 小見 功 郡司 美津子

地区社協設立状況

<笠間>

支部	役職	氏名
こうゆう会	会長	小堀 晃
まなだけ会	会長	黒沢 政男
来栖四つ輪の会	代表	加藤 昌昭
大橋地区 社会福祉協議会	運営委員長	海藤 清治
本戸地区 社会福祉協議会	運営委員長	鈴木 忠夫
寺崎地区 社協しんこう会	会長	田口 昭一

<岩間>

支部	役職	氏名
上押辺	運営委員長	常井 武夫
平	運営委員長	島田 春夫
吉岡2	運営委員長	松本 修児
下安居	運営委員長	佐藤 剛
土師	運営委員長	鬼沢 正
泉A	運営委員長	中村 彦藏

私たちにとって、ボケずに最後まで自分らしく生きることが、最高の幸せかと思っています。

今号では、年をとっても元気に過ごされている高齢者には、次のような特徴があるといわれていますので紹介します。

- 小さなことにくよくよしない。
- 物事に楽観的で頭をよく使う。
- 新聞を読み、テレビのニュースを見て世の中の動きに関心を持つ。
- 花や野菜作りが好きで、毎日散歩も楽しんでいる。
- 毎日自己流の体操をするなど適度な運動をしている。
- 趣味の上達を楽しみながら続けている。
- 野菜や魚などバランスよく食べ、乳製品も多くとる。
- 酒は適度に楽しんでいる。

これらのことは、だれにでもできることなので、特に高齢期を迎える方には考えてみてはいかがでしょうか。

(小野)



善意の寄附を「ありがとう!!」(善意銀行預託)

平成23年2月1日～平成23年6月30日まで(順不同・敬称略)

物 品

使用済み切手	くるす保育所、笠間市観光協会、岡本興業(株)、てらざき保育所、電化サロン カウチ、山口 真佐子、下市毛青年部、湊 節雄、藤井産業(株) 鯉淵 郡二郎、白土 千文、五来 好道、入澤法律事務所、大久保病院、高梨 玲子
紙おむつ多数	鶴田 浩一、松村 宏樹
エコキャップ	いわま保育園、稲田保育所、めくみ保育園 不二製油静岡工場、三村 義一、茨城県立あすなろの里、大久保病院、笠間の陶炎祭 実行委員会、愛の里、とちぎ保育所、すみれ幼稚園、くるす保育所 県立中央病院(施設課・消毒室・リネン室) こころの医療センター デイクア ひだまり
エコキャップ、ブルタブ	ガールスカウト茨城県支部第5団、ガールスカウト茨城県第30団、斉藤 まさ子、佐藤 満洲夫、穴戸苑(関係者・ご家族一同)、笠間市立友部小学校、笠間いきいき市場運営委員会
ねぎ、丸大根	美留町 文男
米	柴山 章
座布団カバー	打越 やす
使用済テレフォンカード	河井 紀久子
未使用テレフォンカード	大平 道
お茶24本入り14ケース	神伊藤園
ジョア32本入り2ケース	水戸ヤクルト販売所
ミルミル28本入り2ケース	支援グループ「旭に向かって」
水、食料品、ホカロン等生活用品	
タオル276本、小タオル16本、バスタオル9本、手ぬぐい7本、肌着5枚、靴下7束、サランラップ5本、石鹸10個、洗剤3本	小島北組女性防火クラブ
ポータブルトイレ	松岡 恭介
テレフォンカード、使用済み切手	稲田小ボランティア委員会
使用済み切手892枚、はがき	青葉町長寿会

作業衣	ヤナカ(株)
飲料水	神保保プラネット
じゃがいも	久保田 保子、小磯 節子
クロワッサン 5,100個	フードバンク茨城
タオル560本、バスタオル10枚、シーツ25枚、洗剤16個、洗剤セット3セット、衣類、梅干2ピン、米22kg、大豆2kg、ささげ1kg、芋がら1袋、日高昆布10個、削り節他食品	岩間郷土史クラブ
ブルタブ多数	佐白の館
煎茶多数	橋本 祐一
梅干し 大壺2、小壺1	久保田 美智子
使用済み切手多数、ブルタブ多数	(有)伊藤石材工業
エコキャップ、使用済み切手	内桶 晏
エコキャップ、台所用品	石井 之子
未使用はがき280枚、未使用切手	ありんこ
生花一鉢	大久保 栄子
拡大読書器	高松 ふで
エコキャップ、ブルタブ、鉛筆・消しゴム130点、未使用・使用済みはがき	友部第二中学校 JRC委員会
はがき、紙おむつ、タオル、エコキャップ、台所用品	匿名 名

金 銭

日本敬神宗相自修団	¥20,000
友部ごみを考える会	¥3,000
中央ろうきん友部支店推進幹事会	¥28,767
スナック オクターヴ 四ツ倉 清一	¥50,000
ふれんず	¥3,404
さくら幼稚園PTA	¥20,000
青葉町長寿会 太田 正	¥43,112
片岡 節男	¥30,000
らーめんれいちゃん	¥4,808
匿名 16件	¥329,711

訂正とお詫び

社協だよりNo.14の福祉作文発表者の中で、誤りがありましたので、お詫びするとともに訂正させていただきます。

P.3 私の介護体験 柴田美千代(誤) 篠田美千代(正)

本市では、行政の支援もあり以前から住民による福祉活動が盛んです。今回の大地震においても、避難所の運営や高齢者の安否確認、災害ボランティアによる片付け等にボランティアグループや行政関係者をはじめより福祉に携わる方や一般住民など多くの市民による支援活動がありました。本号では「あの日を体験し私が感じたこと」と題し、その一部をご紹介します。(生天目)

編集後記

平成23年度 心配ごと相談所開設日程表

日常のお困りごとなどご相談下さい(無料・秘密保持)

時 間：13:00～16:00

場所	笠間支所 (毎週火曜日)	友部支所 (毎週水曜日)	岩間支所 (毎週木曜日)
月	お問い合わせください	友部社会福祉協議会	岩間保健センター
9月	6日・13日・20日・27日	7日・14日・28日	1日・8日・15日・22日・29日
10月	4日・11日・18日・25日	5日・12日・19日・26日	6日・13日・20日・27日
11月	1日・8日・15日・22日・29日	2日・9日・30日	10日・17日・24日
12月	6日・13日・20日・27日	7日・14日・21日・28日	1日・8日・15日・22日

法律相談 ※予約が必要になります。お問い合わせください。

笠間支所	友部支所	岩間支所
第3金曜日 10:00～12:00	第1金曜日 10:00～12:00	第2金曜日 10:00～12:00

お問い合わせ先

社会福祉法人
笠間市社会福祉協議会

友部支所 0296-77-0730
笠間支所 0296-73-0084
岩間支所 0299-45-7889